

**朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略
効果検証結果
（令和2年度実績）**

令和3年7月

朝霞市

基本目標1. 産業の活性化と働きやすい環境づくり

朝霞市の産業の活性化、雇用創出を図り、働きながら生活も充実させたい市民の希望を叶え、暮らしやすいまちを目指す。

数値目標	単位	現状値 (改訂時)	目標値	備考
①民営事業所従業員数の向上	人	40,923	41,300	朝霞市産業振興基本計画におけるR5の目標値41,700人と整合する値を設定。
		(H28)	(R2)	
②女性就業率(30～39歳)の向上	%	66.7	70.2	H27の全国平均70.2%を達成する。H27～H30にかけて女性(15～64才)の就業率は全国平均で5.0ポイント上昇していることを踏まえ設定。
		(H27)	(R2)	

審議会コメント

1 商店街における店舗数の減少の要因が、一般に言われている後継者難や消費行動の変化、集客力の欠乏などによるものなのか、それとも地域の特性によるものなのかをしっかりと見極めたうえで、対策を講じる必要がある。また、新型コロナウイルス感染症が、廃業や店舗数の減少に拍車を掛けるなどの影響を及ぼしているか否か、注視していく必要がある。

2 新型コロナウイルス感染症への感染リスクの拡大を契機に、職場も、学校も、そして人々も、仕事への従事、会議への参加、学習の仕方など、その意識や方法が大きく変化してきた。これら社会環境の変化を認識し、社会インフラを整備していくことは、行政の大きな役割である。

3 テレワーク、オンライン会議、リモート授業などが増えているので、サテライトオフィス、シェアオフィス、コアワーキングスペースやWi-Fi等の環境整備について、市の施策に盛り込むべきである。

基本目標	1	産業の活性化と働きやすい環境づくり
取組方針	(1)	市内産業の活性化と雇用創出
担当課	産業振興課	
概要	既存産業の活性化とともに新たな起業や事業者の誘致を図り、本市における産業振興、雇用創出を実現する。	

1. 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	策定当初	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
		目標(年度)	目標	目標	目標	目標	目標	目標
		実績(年度)	実績	実績	実績	実績	実績	実績
① 市の支援による起業件数	件	157 (R元)	35	80	80	105	130	108
		56 (H26)	59	68	77	79	83	88
② あさか産業フェア参加事業所数	事業所	68 (R元)	40	67	67	68	68	68
		63 (H26)	60	60	63	63	58	中止
③ 商店街店舗数	店舗	592 (R元)	590	590	591	591	592	520
		587 (H26)	571	571	574	514	362	346
④ 中小企業融資実行件数	件	56 (R元)	55	53	53	54	55	56
		51 (H26)	58	35	52	33	27	6
⑤ 有効求人倍率(ハローワーク朝霞管内)	—	1.0 (R元)	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.1
		0.48 (H26)	0.58	0.73	0.93	1.01	0.86	0.64

2. 進捗状況(KPIの達成状況、未達成の理由等について説明)

①市の支援による起業件数 起業の件数は、目標を下回っているものの、セミナーや相談には毎年コンスタントに希望があり、一定の成果を挙げているものと認識している。 ②あさか産業フェア参加事業所数 参加事業所は、商工会の会員であることが要件となっており、参加事業所が固定されていることが目標達成に至っていない要因であると思われる。なお、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で産業フェアは中止であった。 ③商店街店舗数 商店街を担う店舗等が年々減少している。市内産業の振興を図り、また、新規に起業を希望する事業者を募るなど、商店街の活性化が必要であると認識している。 ④中小企業融資実行件数 融資実行件数は減少傾向にあり、新型コロナウイルス感染症の影響が出る前については、景気動向により、融資の利用が必要な中小企業者が減少した可能性が考えられた。新型コロナウイルス感染症の影響が出てからは、売り上げが減少している事業者向けの利子の負担が少ない政府系融資等が実施された関係で、市の融資利用者が減少しているものと考えられる。 ⑤有効求人倍率(ハローワーク朝霞管内) 令和元年度以降の有効求人倍率が1を下回っていることから市内における求人が不足している状況にある。特に、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大により市内の雇用にも大きな影響があったものと考えられる。今後は、産業の活性化による求人数の増加を目指すとともに、情報収集により感染症拡大も含めた状況把握に努めていく。

3. 今後の方針(主な取組に変更があれば記載)

平成30年度に策定された「産業振興基本計画」において、4つのリーディングプロジェクトとして「あさか起業×リノベーションプロジェクト」、「あさか型企業誘致プロジェクト」、「あさか野菜の地産地消プロジェクト」、「あさかで働こうプロジェクト」を設定し、それぞれのプロジェクトを推進することで、産業の振興に位置づく各目標を達成していくよう取り組んでいく。
--

基本目標	1	産業の活性化と働きやすい環境づくり
取組方針	(2)	市民の仕事と生活の両立を実現するまちづくり
担当課	産業振興課、保育課	
概要	労働意欲のある市民への支援を充実させ、勤労者が仕事と生活のバランスのとれた、暮らしやすいまちを目指す。	

1. 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	策定当初	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
		目標(年度)	目標	目標	目標	目標	目標	目標
		実績(年度)	実績	実績	実績	実績	実績	実績
① 多様な働き方実践企業の市内認定数	社	29 (R元)	19	28	28	29	29	47
		18 (H26)	27	29	33	35	36	45
② 待機児童数	人	0 (R元)	0	0	0	0	0	0
		38 (H26)	47	79	114	106	44	68
③ 放課後児童クラブ入所保留者数	人	0 (R元)	0	0	0	0	0	0
		57 (H26)	141	101	75	138	175	136
④								
⑤								

2. 進捗状況(KPIの達成状況、未達成の理由等について説明)

①多様な働き方実践企業の市内認定数

令和元年度までは目標値を達成してきたが、令和2年度においては目標値を下回る結果となった。しかしながら、市内企業の認定件数が増加傾向にあるため、より認定件数が伸びるよう周知が必要であった。

②待機児童数

令和2年度に保育園2園、小規模保育を2施設を新たに整備し、197人の定員増を図ったが、KPIの指標にある目標値を達成できなかった。

③放課後児童クラブ入所保留数

令和2年度には民間放課後児童クラブを2か所整備し、新たに90人の受入れ枠を増やしたが、放課後児童クラブを申込まれる方は増加傾向にあるため、KPIの指標にある目標値を達成できなかった。

3. 今後の方針(主な取組に変更があれば記載)

①多様な働き方実践企業の市内認定数

市内企業の認定件数は増加傾向にある中、市においても新たに「朝霞市ワーク・ライフ・グッドバランス企業」の認定事業がスタートしたため、市の認定件数を増やしていくことで「多様な働き方実践企業」の認定数も増やしていくことが望ましいと考える。今後も、商工会など関係団体と連携しながら取り組みを推進していく。

②待機児童数、③放課後児童クラブ入所保留数

今後も、「朝霞市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、保育園及び放課後児童クラブの整備を進め、引き続き待機児童等の解消に努める。

基本目標2. 地域の特色を生かした選ばれるまちづくり

多くの人に転居の際に居住先として朝霞市を選択していただけるようまちの魅力をPRし、市民であることを誇れて、長く住み続けたいと思えるまちを目指す。

数値目標	単位	現状値 (改訂時)	目標値	備考
①これからも朝霞市に住み続けたいと考えている市民の割合の向上	%	80.6	90	市民意識調査における「朝霞市に住み続けたい」と考えている市民の回答割合を向上させる。次回市民意識調査はR6実施予定。
		(R元)	(R2)	
②朝霞市が好きと感じている青少年の割合の向上	%	88.2	85	青少年アンケートにおける「朝霞市が好き」と感じている青少年の回答割合を向上させる。次回青少年アンケートはR6実施予定。
		(R元)	(R2)	

審議会コメント

- 1 フェイスブック、ツイッター、インスタグラムなど、これからは各SNSの特徴を活かしたプロモーションを行っていくことが求められる。
- 2 国が推進する施策の中には、国民に対し半ばデジタル対応を強制しているような様式をとるものがある。それ故に、デジタル・サイエンスにうまく適応できない人たち、とくに高齢者などがその対応に窮し、混乱している状況が見て取れる。今後は、デジタル社会の中で置き去りにされる人が出ないような環境の整備とともに、デジタル対応に不得手な高齢者への対応策を講じる必要がある。
- 3 情報を必要としている人のところに、確実にその情報が届くような仕組みや周知の方法などを考えて、情報提供、情報発信を行う必要がある。
- 4 近年ずっと続いている転入超過の傾向を、これからも維持していけるか否かが朝霞市の将来を考えるうえで、非常に重要なテーマとなる。
- 5 公民館などの公共施設の一角にフリーWi-Fiが利用できる環境を整備して、仕事や学習ができるスペースとして貸し出すことを検討してはどうか。それにより、広い居住スペースを求めて、朝霞市より家賃が安い地域へ転出する人を朝霞市に繋ぎ止めて置く一助となるのではないか。

基本目標	2	地域の特色を活かした選ばれるまちづくり
取組方針	(1)	朝霞市の魅力の再発見と活用による、特色あるまちづくり
担当課	まちづくり推進課、道路整備課、みどり公園課	
概要	交通、自然、環境等、本市の特色である「住みやすさ」を強化するため、利便性の高い鉄道交通の強みを発揮できるよう、多様な市内交通環境の充実を図るとともに、魅力ある居住環境を整備し、地域の特色を明確にする。	

1. 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	策定当初	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
		目標(年度)	目標	目標	目標	目標	目標	目標
		実績(年度)	実績	実績	実績	実績	実績	実績
① 市内循環バス利用者数	人	407,000 (R元)	375,000	383,000	391,000	399,000	407,000	419,000
		382,061 (H26)	396,962	400,135	393,437	418,328	415,286	291,774
② 歩道整備延長(累計値)	m	76,790 (R元)	76,310	76,430	76,550	76,670	76,790	76,910
		76,191 (H26)	76,289	76,438	76,658	76,721	76,911	77,007
③ 公園・緑地管理ボランティア団体数	団体	19 (R元)	17	18	18	18	18	19
		17 (H26)	19	20	20	21	21	21
④								
⑤								

2. 進捗状況(KPIの達成状況、未達成の理由等について説明)

①市内循環バス利用者数

【運行概要】

路線数 4路線(運行距離34.35km、バス停数70か所、運行数平日92本、休日76本)

乗車人数 291,774人、1日平均804人

・令和元年7月から、朝霞市地域公共交通協議会を設置し、令和3年2月に「朝霞市地域公共交通計画」を策定した。
 ・令和2年度の乗車人数は、新型コロナウイルス感染拡大の影響から公共交通の利用を控える傾向となり、前年度に対して3割程度減少した結果、目標の数値を達成することはできなかった。

②歩道整備延長(累計値)

地権者から歩道用地の協力が得られ、目標値に掲げた整備延長を達成できた。

③公園・緑地管理ボランティア団体数

公園・緑地管理ボランティア団体数は、目標を上回っている。

公園等管理ボランティア団体の都合により1団体(宮戸立出児童遊園地すずらの会)解散することとなったが、新規で緑地管理ボランティア団体が1団体(わくわく田島緑地広場の会)設立されたため、令和2年度の団体数は昨年度と同様に21団体で変化はなかった。

※ボランティア団体数の目標値については、施策評価シートに基づき修正した。

①H28年度の目標値を17から18へ修正。

②R元年度の目標値を19から18へ修正。

③R2年度の目標値を23から19へ修正。

3. 今後の方針(主な取組に変更があれば記載)

①市内循環バス利用者数

「朝霞市地域公共交通計画」に基づき、総合的な交通情報案内サービスの提供、バスの利用促進に向けた意識の醸成等の各種施策を実行し、市内循環バス利用者数の回復に努めていく。

②歩道整備延長(累計値)

道路整備基本計画に基づき、優先順位の高い路線から歩道整備を進める。

③公園・緑地管理ボランティア団体数

引き続き公園・緑地管理ボランティア団体の募集を行うとともに、各団体の継続支援に注力する。

基本目標	2	地域の特色を活かした選ばれるまちづくり
取組方針	(2)	ふるさと意識の醸成
担当課	地域づくり支援課、産業振興課、文化財課	
概要	市民が幅広く参加できる行事を定期的に行い、地域の一体感、団結力を感じることができるとともに、地域固有の歴史・文化を伝え広めることで、市への愛着、ふるさと意識の醸成を図る。	

1. 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	策定当初	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
		目標(年度)	目標	目標	目標	目標	目標	目標
		実績(年度)	実績	実績	実績	実績	実績	実績
① 地域イベント参加者数	人	770,000 (R元)	770,000	770,000	770,000	770,000	770,000	822,000
		755,000 (H26)	730,000	795,000	801,000	812,000	822,000	中止
② 博物館入館者数	人	53,200 (R元)	63,000	52,300	52,600	52,900	53,200	43,004
		48,605 (H26)	50,052	49,819	41,810	42,919	31,770	16,107
③ 旧高橋家住宅来園者数	人	11,760 (R元)	11,000	11,640	11,680	11,720	11,760	11,800
		11,186 (H26)	13,177	14,161	13,343	13,724	14,215	8,855
④								
⑤								

2. 進捗状況(KPIの達成状況、未達成の理由等について説明)

①地域イベント参加者数

【地域づくり支援課】

新型コロナウイルス感染症により、彩夏祭の中止をはじめ、コミュニティ活動に大きな影響を受け、指標は達成できなかったが、事業の内容の見直しや彩夏祭代替イベントの実施などに取り組み、来年の開催に向けて機運醸成を図った。

【産業振興課】

地域イベントの参加者数は、年々増加傾向にあり実績を伸ばしていたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で軒並みイベントの中止を余儀なくされた。しかしながら、令和元年度までの状況においては、朝霞の四季のイベントとして、春の「黒目川花まつり」、夏の「彩夏祭」、秋の「アートマルシェ」、冬の「どんぶり王選手権」が市内外に広く認識されるようになっているものと思われる。

②博物館入館者数

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による休館や、企画展等の中止の影響によるものと思われる理由により、指標は達成できなかったが、収蔵資料による代替展示の開催などにより、可能な範囲で事業を実施し、次年度に向けて機運醸成を図った。

③旧高橋家住宅来園者数

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による休園や、イベント等の中止の影響によるものと思われる理由により、指標は達成できなかったが、季節行事の飾りつけなどを実施し、次年度に向けて機運醸成を図った。

3. 今後の方針(主な取組に変更があれば記載)

①地域イベント参加者数

【地域づくり支援課】 鳴子踊り参加促進支援事業補助金について、新型コロナウイルス感染症などの影響を考慮しながら、可能な範囲で小中学校が参加できるよう教育委員会や学校と連携していく。

新型コロナウイルス感染症や東京2020オリンピック・パラリンピックの影響により通常とは異なる開催となる市民まつりに向け、実行委員会や関係機関と連携・協力して準備を進める。

【産業振興課】 感染症が終息する兆しが見えない中であるが、各イベントが開催される際は主催者と協議しながら、イベント内容の充実を図っていく。

②博物館入館者数、③旧高橋家住宅来園者数

新型コロナウイルスの蔓延により、各種の事業を中止・延期せざるを得ない状況であったが、今後においては、「新しい生活様式」の中で実施可能な事業を検討していくとともに、KPI値は人数で測ることをせず、地域固有の歴史・文化を伝え広めるため、博物館を授業等で使用した市内小中学校数を目標とし、達成に向けた取り組みを進めることとする。

基本目標	2	地域の特色を活かした選ばれるまちづくり
取組方針	(3)	朝霞市の魅力を発信するシティプロモーション
担当課	シティ・プロモーション課	
概要	朝霞市の魅力と、一体感のある地域性を市内外へ積極的に情報発信することで、対外的には朝霞市への知名度の向上を図り、市民に対しては朝霞に住んでいることを誇れるようなまちづくりを進める。	

1. 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	策定当初	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
		目標(年度)	目標	目標	目標	目標	目標	目標
		実績(年度)	実績	実績	実績	実績	実績	実績
① 朝霞市フェイスブックページのファン数	-	2,000 (R元) 842 (H26)	1,100 1,384	1,400 1,630	1,600 1,802	1,800 1,875	2,000 2,025	2,200 2,166
②								
③								
④								
⑤								

2. 進捗状況(KPIの達成状況、未達成の理由等について説明)

①朝霞市フェイスブックページのファンの数

朝霞市の魅力等を積極的に情報発信することにより、KPIの年度目標を達成できていた。
令和2年度はKPIの目標値を超えることはできなかったが、フェイスブック利用者のユーザー離れなども要因の一つと考えられる。

【リアクション数が多かった記事】

- ・「ウチの娘は、彼氏が出来ない!!」(1月27日、リーチ数6,430)
- ・10歳・8歳の迷子のお知らせ(6月11日、リーチ数3,900)
- ・10歳の迷子のお知らせ(5月25日、リーチ数3,726)
- ・先払い応援チケットOMOIYARI♡TICKET販売開始(4月21日、リーチ数4,053)

3. 今後の方針(主な取組に変更があれば記載)

①朝霞市フェイスブックページのファンの数

今後も引き続き効果的な情報発信に努めていく。
近年のSNSの利用状況は、フェイスブックのユーザー離れが進み、減少の一途をたどっており、より効果的な指標に切り替える必要がある。
朝霞市の魅力を発信する媒体として、様々な媒体を利用しており、フェイスブックからツイッターにKPIを変更する。

基本目標3. 子どもを生み・育てやすいまちづくり

子育てにかかる様々なニーズに応じた環境づくりを地域との連携により実現するとともに、子どもたちが通いたいと思える魅力ある学校教育を推進することで、子どもを生み・育てたいと思えるまちを目指す。

数値目標	単位	現状値 (改訂時)	目標値	備考
①合計特殊出生率の維持・向上	—	1.47	1.50	1.35～1.5で変動する状況を安定させ、近年の上昇傾向を維持する。
		(H25～H29の 平均値)	(H28～R2の 平均値)	
②就学前後0～9歳の純移動数の向上	人	-136	0	子育て世帯の転出超過の状況に歯止めをかけ、0～9歳の純移動数(転入－転出)を好転させる。
		(H27～H29の 平均値)	(H30～R2の 平均値)	

審議会コメント

1 新型コロナウイルス感染症への感染リスクの拡大を契機に、職場も、学校も、そして人々も、仕事への従事、会議への参加、学習の仕方など、その意識や方法が大きく変化してきた。これら社会環境の変化を認識し、社会インフラを整備していくことは、行政の大きな役割である。(再掲)

2 自宅以外の場所で、大学などのオンライン授業を受けることができる環境を整備すべきである。

3 市の審議会、委員会などに、子育て世代の市民の声が反映されるよう、引き続き一般市民から選ばれる公募委員の中に選出枠を設けてほしい。

基本目標	3	子どもを生み・育てやすいまちづくり
取組方針	(1)	妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目のない支援体制の構築
担当課	健康づくり課、こども未来課	
概要	妊娠・出産・子育てにわたる切れ目のない支援体制を構築し、子育て世帯の孤立を防ぐ。	

1. 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	策定当初	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
		目標(年度)	目標	目標	目標	目標	目標	目標
		実績(年度)	実績	実績	実績	実績	実績	実績
① 専門職が面談する妊婦の人数	人	1,500 (R元)	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,450
		55 (H26)	44	39	765	1,316	1,320	1,216
② こども医療費助成制度における、対象こども1人当たりの年間受診件数	件	1.22 (R元)	1.22	1.22	1.22	1.22	1.22	1.18
		1.22 (H26)	1.18	1.17	1.16	1.18	1.18	0.90
③								
④								
⑤								

2. 進捗状況(KPIの達成状況、未達成の理由等について説明)

① 専門職が面談する妊婦の人数

子育て世代包括支援センターでの母子手帳交付等をととして、保健師等の専門職がすべての妊産婦等の状況を把握し、必要に応じて支援プランを作成することにより、妊産婦等に対して切れ目のない支援の実施を図るとともに、退院直後の母子の心身のケアや育児サポート等を行っている。

母子手帳交付のための来所者数は令和3年度、1,259人で、そのうち1,216人の妊婦に専門職が面談を実施しており、96.6%となっている。また、代理申請等の場合も電話等での聞き取りを行うことで、妊婦の状況は把握できているため、成果目標は達成できた。

② こども医療費助成制度における、対象こども1人当たりの年間受診件数

令和2年度のこども医療費支給制度において、入院件数及び外来件数の合計244,270件を対象児童数270,973人で割ることにより、実績を算出しました。

$244,270 \text{ 件} \div 270,973 \text{ 人} \approx 0.90 \text{ 件/人}$

令和2年度は、目標値よりも実績値が下回っていますが、新型コロナウイルスの影響を受け、医療機関への受診を控えた結果であると考えています。

3. 今後の方針(主な取組に変更があれば記載)

① 専門職が面談する妊婦の人数

子育て世代包括支援センターと保健センター地区担当保健師の支援体制について整理するとともに、虐待関連部署等とも情報の共有をしていく必要がある。また、現在、窓口は1か所となっているが、専門職がすべての妊婦と面談し、健康状態だけでなく、妊婦の抱える様々な悩みや問題に介入し、支援に繋げるが、妊娠初期においては、体調が不安定な場合もあり、身体的負担が少なく、安心して相談できる体制づくりも必要である。今後、子育て世代包括支援センター機能の一部を朝霞台方面への設置について、検討していきたい。

② こども医療費助成制度における、対象こども1人当たりの年間受診件数

新型コロナウイルスの影響もあり、受診件数が減少したが、必要な医療を適正に受けていただくよう、資格登録時をはじめ、広報や市ホームページを通じて周知してまいります。

基本目標	3	子どもを生き・育てやすいまちづくり
取組方針	(2)	様々な保育需要に応じた環境づくり
担当課	保育課	
概要	子育て世帯を支援するとともに、様々な保育需要に応じた環境づくりに努める。	

1. 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	策定当初	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
		目標(年度)	目標	目標	目標	目標	目標	目標
		実績(年度)	実績	実績	実績	実績	実績	実績
① 待機児童数	人	0 (R元)	0	0	0	0	0	0
		38 (H26)	47	79	114	106	44	68
② 放課後児童クラブ入所保留者数	人	0 (R元)	0	0	0	0	0	0
		57 (H26)	141	101	75	138	175	136
③								
④								
⑤								

2. 進捗状況(KPIの達成状況、未達成の理由等について説明)

①待機児童数

令和2年度に保育園2園、小規模保育を2施設を新たに整備し、197人の定員増を図ったが、KPIの指標にある目標値を達成できなかった。

・平成27年4月	認可保育所等32園、小規模保育施設等 8箇所	認可定員2,488人
・平成28年4月	認可保育所等33園、小規模保育施設等11箇所	認可定員2,610人
・平成29年4月	認可保育所等37園、小規模保育施設等14箇所	認可定員2,926人
・平成30年4月	認可保育所等40園、小規模保育施設等17箇所	認可定員3,143人
・平成31年4月	認可保育所等42園、小規模保育施設等22箇所	認可定員3,362人
・令和 2年4月	認可保育所等44園、小規模保育施設等24箇所	認可定員3,559人

②放課後児童クラブ入所保留数

令和2年度には民間放課後児童クラブを2か所整備し、新たに90人の受入れ枠を増やしたが、放課後児童クラブを申込まれる方は増加傾向にあるため、KPIの指標にある目標値を達成できなかった。

・平成27年4月	公設放課後児童クラブ10クラブ	定員1,214人
・平成28年4月	公設放課後児童クラブ10クラブ	定員1,243人
・平成29年4月	公設放課後児童クラブ10クラブ、民間放課後児童クラブ 2クラブ	定員1,323人
・平成30年4月	公設放課後児童クラブ10クラブ、民間放課後児童クラブ 5クラブ	定員1,443人
・平成31年4月	公設放課後児童クラブ10クラブ、民間放課後児童クラブ 7クラブ	定員1,553人
・令和 2年4月	公設放課後児童クラブ10クラブ、民間放課後児童クラブ 9クラブ	定員1,643人

3. 今後の方針(主な取組に変更があれば記載)

①待機児童数、②放課後児童クラブ入所保留数

今後も、「朝霞市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、保育園及び放課後児童クラブの整備を進め、引き続き待機児童等の解消に努める。

基本目標	3	子どもを生み・育てやすいまちづくり
取組方針	(3)	魅力ある教育の推進
担当課	教育指導課	
概要	子育て世帯の定住化のため、魅力ある教育を推進する。とりわけ、児童生徒の学力向上のため、望ましい生活習慣の定着及び人間性の形成・人間関係づくりによる心身の健全育成を図る。	

1. 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	策定当初	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
		目標(年度)	目標	目標	目標	目標	目標	目標
		実績(年度)	実績	実績	実績	実績	実績	実績
① 朝食摂取率	%	100 (R元)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		99.0 (H26)	99.0	98.7	98.6	98.6	98.0	98.4
② 全国平均を上回る平均正答率の数	-	全項目(R元)	全項目	全項目	全項目	全項目	全項目	全項目
		3/4項目(H26)	2/4項目	2/4項目	2/4項目	3/4項目	全項目	未実施
③								
④								
⑤								

2. 進捗状況(KPIの達成状況、未達成の理由等について説明)

①朝食摂取率

朝霞市食育推進委員会でアンケート調査を継続的に実施している。1週間における回数に関わらず、朝食を摂取してから登校する児童生徒の割合を指している。平成25年度から向上してきていたが、ここ数年横ばい傾向にある。朝食の摂取率については、家庭環境との関わりが大きく影響してくる。また、中学生においては、朝食摂取率が小学生より、下降しており、起床時刻が遅いなど、生活習慣が乱れていることが要因と考えられる。

※アンケート調査(「朝食を食べますか。」)

<小学生> 7,230人回答 ①毎日食べる 6,678人 ②週に2～3日食べないことがある 369人
③週に4～5日食べないことがある 94人 ④ほとんど食べない 89人
<中学生> 3,115人回答 ①毎日食べる 2,764 ②週に2～3日食べないことがある 208人
③週に4～5日食べないことがある 65人 ④ほとんど食べない 78人

②全国平均を上回る平均正答率の数

全国学力・学習状況調査の教科に関する調査の小学校第6学年の国語・算数、中学校第3学年国語・数学における達成状況を指標としている。令和2年度については、新型コロナウイルス感染症の影響により実施していない。

※令和元年度全国学力・学習状況調査における平均正答率(単位: %)

<小学校6年>
国語 朝霞市 68 埼玉県 64 全国 63.8
算数 朝霞市 69 埼玉県 66 全国 66.6
<中学校3年>
国語 朝霞市 74 埼玉県 73 全国 72.8
数学 朝霞市 63 埼玉県 59 全国 59.8
英語 朝霞市 59 埼玉県 56 全国 56.0

3. 今後の方針(主な取組に変更があれば記載)

①朝食摂取率

新型コロナウイルス感染症の影響により、臨時休校等になったことから、生活リズムが乱れていることが考えられる。児童・生徒が体調の維持や集中力を高めるためにも、バランスのよい食事は大切である。家庭科等の学習において、栄養素をバランスよくとる食事の大切さについて理解させるとともに、早寝・早起き等、規則正しい習慣を身に付けさせるよう、家庭と連携を図っていく。

②全国平均を上回る平均正答率の数

英語における話すこと調査では、埼玉県・全国の平均を上回っているものの、数値としては決して高い数値ではない。英語科授業の充実及び国際理解教育の充実を図るためにも、各小中学校に派遣しているALTと担任・教科担当とが連携を密にし、指導を進めていく。

令和3年度全国学力・学習状況調査は実施予定。

基本目標4. 地域の人がつながり、支え合える安全・安心のまちづくり

年齢や障害の有無、国籍等に関係なく、みんなが交流し、支え、助け合う、安全・安心な地域づくりを進める。また、増加することが想定される高齢者の医療費や介護ニーズへ対応するとともに、高齢者の健康づくりや地域活動への参加のサポートなど、地域コミュニティを活性化することで、人と人がつながり、生きがいを持って安心して暮らし続けられるまちを目指す。

数値目標	単位	現状値 (改訂時)	目標値	備考
①近所づきあいがある市民の割合の向上	%	33.2	45	市民意識調査における「日頃からつきあいがある」、「会えば立ち話をする」の回答割合を向上させる。次回市民意識調査はR6実施予定。
		(R元)	(R2)	
②生きがいをもっている高齢者(65歳以上)の割合の向上	%	67.2	81	高齢者福祉計画における調査で90歳以上の方の80.8%は「生きがいがある」と回答していることから、65歳以上の高齢者全体がこの割合に到達することを目指す。
		(H29)	(R2)	

審議会コメント

1 自治会・町内会の制度が始まってから相当の年月が経過しており、制度疲労を来している。自治会・町内会に対する行政の支援の在り方について、抜本的に見直す時期に来ているのではないかと。

2 自治会・町内会の存在は、地域社会の中で社会的弱者が孤立するのを防止するという観点からも非常に重要な意義を有している。については、市の重点施策という位置づけで推進していくべきである。

3 災害時に支援が必要な人に関する情報であっても、個人情報保護の観点から共有できる範囲が限定されている。現状では、いざ災害が起きたときに迅速に、適切な対応ができるかどうか非常に心配である。早急な対策が求められる。

基本目標	4	地域の人がつながり、支え合える安全・安心のまちづくり
取組方針	(1)	人と人がつながり、健康で一人一人が自分の生きがいを持てる地域づくり
担当課	生涯学習・スポーツ課、健康づくり課、地域づくり支援課	
概要	地域において、人と人がつながり、健康で一人一人が自分の生きがいを持つことができるよう、文化・スポーツ活動や社会貢献活動を支援する。	

1. 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	策定当初	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
		目標 (年度)	目標	目標	目標	目標	目標	目標
		実績 (年度)	実績	実績	実績	実績	実績	実績
① 文化祭参加者数	人	18,500 (R元)	15,000	17,000	17,500	18,000	18,500	19,000
		15,524 (H26)	16,360	13,071	8,118	12,894	12,366	中止
② 市民体育祭参加者数	人	10,000 (R元)	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
		9,900 (H26)	雨天中止	雨天中止	9,200	8,900	雨天中止	中止
③ 健康寿命 (男性)	年	17.50 (R元)	17.00	17.20	17.40	17.40	17.50	18.36
		17.21 (H26)	17.52	17.83	17.90	17.92	-	-
④ 健康寿命 (女性)	年	20.40 (R元)	20.10	20.20	20.40	20.40	20.40	21.08
		19.98 (H26)	20.17	20.51	20.64	20.69	-	-
⑤ 市民活動団体数: 団体の施設利用回数 (延べ)	団体	464 (R元)	440	446	452	458	464	515
		398 (H26)	652	660	525	515	505	240

2. 進捗状況 (KPIの達成状況、未達成の理由等について説明)

- ①文化祭参加者数
例年、絵画・盆栽などの展示や、お茶や生け花などの体験事業を実施し、市民が気軽に参加して文化芸術を身近に感じることができる事業を実施している。また、朝霞西高校の書道部による「パフォーマンス書道」や、写真部の作品展示を行うことで、学生たちの日頃の活動成果が発表できる場としても実施しているが、令和2年度は新型コロナウイルスの影響によりやむなく中止となった。
- ②市民体育祭参加者数
テントの設置を含めた会場の設営等を委託することにより、参加団体の負担軽減を図るとともに、体育祭の中でのエキシビジョンを充実していくなど、工夫を凝らした体育祭の開催を予定していたが、新型コロナウイルスの影響によりやむなく中止となった。
- ③④健康寿命
男性、女性ともに目標値を上回り、前年度より伸びている。健康づくり事業や介護予防事業などを通して取り組むことにより評価指標の達成ができています。
- ⑤市民活動団体数: 団体の施設利用回数 (延べ)
市民活動に関する情報の提供や相談等の場として、適切な維持管理を行うなど利用しやすい環境整備に努めたが、新型コロナウイルス感染症による施設の臨時休所等のため、利用回数が減少したと考えている。

3. 今後の方針 (主な取組に変更があれば記載)

- ①文化祭参加者数
多くの市民が、体験・参加できる事業を引き続き実施し、伝統文化の継承に努める。また、幅広い世代が交流し、芸術文化を身近に感じて親しみ、学ぶ機会の提供に努め、芸術文化の振興を図る。さらに、コロナ禍における文化祭の実施方法について、安心・安全に開催できる手段を検討していく。
- ②市民体育祭参加者数
市民体育祭は、年々参加地区数が減少しており、町内会や自治会の負担軽減を図るため、各地区ごとで行っていたテントの設営及び撤去を、令和2年度は委託で行うこととした。令和3年度以降も引き続き、会場設営を委託で行い、参加団体の負担軽減に努めていく。
また、競技種目等について検討を行い、参加する市民のニーズに沿った開催方法とすることで、参加者の増に努めていく。
さらに、平成30年のエキシビジョンとして実業団選手による1500m走が好評だったため、今後、競技種目等の検討を行うなど、『見るスポーツ』を来場者に提供し、楽しめる市民体育祭を目指していく。
- ③④健康寿命
健康づくり事業など継続して取組みを実施していく。今後においても、健康寿命の延伸に向け多くの参加者に来てもらえるよう工夫する。
- ⑤市民活動団体数: 団体の施設利用回数 (延べ)
今後も、適切な施設の維持管理に努めながら、担当職員のスキル向上や市民活動団体及び施設の周知方法を工夫するなどして、目標達成に向けた取組を進める。

基本目標	4	地域の人がつながり、支え合える安全・安心のまちづくり
取組方針	(2)	様々な人々が相互に支えあうまちづくり
担当課	長寿はつらつ課、地域づくり支援課	
概要	子どもから、高齢者、障害のある人、外国人まで、様々な人を受け入れることができ、相互に支え、助け合うことができる地域づくりを進める。	

1. 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	策定当初	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
		目標(年度)	目標	目標	目標	目標	目標	目標
		実績(年度)	実績	実績	実績	実績	実績	実績
① 多世代が交流できる機会	回	5 (R元)	—	—	3	4	5	10
		0 (H26)	—	—	9	8	6	0
② 自治会・町内会加入率	%	48.0 (R元)	60.0	47.35	47.6	47.8	48.0	48.0
		47.1 (H26)	44.9	44.5	43.7	42.7	41.4	40.3
③								
④								
⑤								

2. 進捗状況(KPIの達成状況、未達成の理由等について説明)

① 多世代が交流できる機会

子どもから高齢者など、多世代の交流事業については、平成29年度より一部を社会福祉協議会へ委託している。一般介護予防事業として取組むと共に、老人福祉センター事業としても取組み、目標を上回ることができた。

【実績】R元年度

・老人福祉センター事業

(浜崎) 夏休み子どもとの交流事業として「ミニテニス」2回 「卓球の日」2回

(溝沼) 児童館との交流事業「老センに行こう!」1回

幼稚園児との交流会 1回

合計6回

【実績】R2年度

・老人福祉センター事業 0回

新型コロナウイルスの感染拡大防止により児童、高齢者の感染リスクを考慮した結果、事業をすべて中止したため。

② 自治会・町内会加入率

加入率については、前年度比1.1ポイント低下し、目標を達成できなかった。

自治会連合会と連携して実施した加入促進活動は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、懸垂幕やマグネットシートなど、接触を避けた新たな内容とした。

3. 今後の方針(主な取組に変更があれば記載)

① 多世代が交流できる機会

新型コロナ禍の中でも直接的な交流ではなく児童と高齢者がお互いにつながることができるような事業を進めていく。

② 自治会・町内会加入率

自治会・町内会の加入率の減少に歯止めがかからず、また、役員の高齢化や担い手不足も進行している状況にある中で、防災・防犯、子どもや高齢者の見守りなど、自治会・町内会に期待される役割が増えていることから、コロナ禍においても地域活動が停滞することがないように情報提供や加入促進に取り組んでいく。

基本目標	4	地域の人がつながり、支え合える安全・安心のまちづくり
取組方針	(3)	地域防災の連携を図り、災害に対応できるまちづくり
担当課	危機管理室、地域づくり支援課	
概要	効果的な防災活動を行えるよう、自主防災組織の活動を支援する。また、遠隔地の市町村と締結した災害時相互応援協定について、協定の実効性を高めるために、平常時から互いの顔が見えるような交流活動を行う。	

1. 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	策定当初	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
		目標(年度)	目標	目標	目標	目標	目標	目標
		実績(年度)	実績	実績	実績	実績	実績	実績
① 自主防災組織の組織率	%	85.0 (R元)	81.0	82.0	83.0	84.0	85.0	85.0
		79.9 (H26)	80.0	80.2	81.7	82.1	82.1	82.1
② 災害時相互応援協定先との交流回数	回/年	5 (R元)	3	5	5	5	5	32
		1 (H26)	12	12	36	32	37	16
③								
④								
⑤								

2. 進捗状況(KPIの達成状況、未達成の理由等について説明)

①自主防災組織の組織率 R元年度については、自主防災組織未結成の自治会等に対し、地域防災アドバイザーと共に自主防災組織の重要性、役割等について説明を行い結成を促したが、目標を達成することはできなかった。 R2年度については、コロナウイルスの懸念もあり、自主防災組織の重要性、役割等への説明を行うことが難しく、目標を達成することができなかった。 ②災害時相互応援協定先との交流回数 宿泊施設の市民優待制度は、佐久市、東根市及び西伊豆町の3自治体と継続して実施している。 新型コロナウイルス感染症の影響により、目標値を下回ったが、彩夏祭代替イベントへの協力や都市間交流パネル展など、新たな方法を取り入れて交流を継続させることができた。

3. 今後の方針(主な取組に変更があれば記載)

①自主防災組織の組織率 引き続き地域防災アドバイザーと協力して、未結成の自治会等に出向いて自主防災組織の重要性等を説明するとともに、平成28年度末に完成した防災啓発冊子「あさか防災」の普及促進にも努め、組織率の向上に努める。 ②災害時相互応援協定先との交流回数 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえながら、従来の取組を継続するとともにSNS等を活用し交流先自治体の魅力を発信し、市民への周知と交流の促進を図っていく。
